

ゆきの灯り

第60号

令和4年1月発行
油木協働支援センター
TEL 82-0701
FAX 82-2228

生涯学習マスコット：マナビイ



新年のご挨拶

油木協働支援センター長 赤木 健二

輝かしく令和4年壬寅年を迎え、新年明けましておめでとございます。

令和3年は、前の年に続き新型コロナウイルスの脅威の中に明けて、10月頃までは緩めたり引き締めたりの繰り返しで、落ち着かない状態が続きました。感染されたり、後遺症に悩まされている方に対しては、心からお見舞い申し上げます。師走に入りまして急激に治まってきたようですが、まだまだ第六波の恐れがあるとのこと。油断はできません。

さて、油木協働支援センターでは昨年の一歩の事業として、ゆきなび部化石魅力化プロジェクトチームによる「にしかわ化石館」のオープンが挙げられます。

西川酒店を経営されていた故西川功氏が、長年をかけて蒐集された鉱石・化石等、合わせて七千点余の貴重な標本や、故西川功氏の功績を後世に遺すことを目的に10月4日にオープンセレモニーを行いました。以来12月末までに町内では小中学校の授業をはじめ200余名、町外から100余名の方々が来館されています。(町外からは特に化石に造詣が深い方も多く来られます。)

まだまだ、今後の運営には多くの課題がありますが、遠く将来まで「町の宝」として行政と協働体制を組み、活かしていきたいと考えています。

同じく、ゆきなび部文化イベントチームでは、12月5日にエスタシオンによるコンサートを開催し、襖に描かれた「堅香子図」を拝観しながら鑑賞することができました。(会場：天徳寺)

同じく、ゆきなび部神儀映像保存チームでは、前年に続き、三神社の撮影を実施しました。編集ができた第公開を始める予定です。今年も数神社の撮影を計画しています。

同じく、ゆきなび部ゆきキッズクラブ・大人の教室では、新型コロナウイルス緊急事態宣言下を除き、順調に開催でき、地域の方々の生涯学習に対するニーズに少しでも応えられています。

福祉部福祉会では、町の施策を中心に補助的支援を行うことを確認していますが、社会福祉協議会が実施している「まめ豆クラブ」において、自動車を使えない人に対するタクシー代補助が令和4年度をもって打ち切られることとなり、その部分の支援制度を作ることとなりました。

農商業推進部農商業推進部わくわく農業チャレンジャーチームでは、「軽トラ掘り出し市」を7月25日・8月22日・11月3日3回開催しました。前年の秋ほどの盛況ではなかったものの、油木百彩館の存在を少しでもアピールできたかと思えます。油木になくはない施設(油木百彩館)の課題解決策を今後も模索していきます。

同じく、地域農業担い手支援チームでは、ウツドチップ貸付事業の需要が多く、昨年は春の段階で9件の利用がありました。効率よく処理ができるようなので、是非ご利用ください。

また、労働力不足対策事業では、防草ネット製



神儀映像保存チーム

◇お知らせ◇
令和3年12月20日(火)より、福万彩名事務局長が着任しました。主に庶務・経理を担当します。よろしくお願ひします。

品検証事業として地区内4か所で実証実験を行っています。今秋には結果が分かり支援制度をスタートできるかと思えます。

地域づくり部移住促進定住支援チームでは、空き家バンクへの登録推進を奨め、移住推進コーディネーター設置における支援制度を設計しようと考えています。

このように油木協働支援センターとしては、順調に進んでいる事業、課題もあり停滞気味の事業と進捗に温度差もありますが、地区住民が「丸」となり「我が地域・我が地区」を、自分たちでできることから進めて行くのではありませんか。今年もよろしくお願ひします。

令和4年

初日の出



1月1日 愛宕神社(小野)



小野 初日の会の皆さん

プロ野球選手が

やっつて来た!

伊藤裕季也内野手(横浜)



プロ野球横浜DeNAベイスターズの伊藤裕季也内野手が、12月16日(木)〜18日(土)にかけて油木スポーツ広場屋内グラウンドを中心に自主トレーニングを行いました。

今回の自主トレーニングは、「油木高校魅力化増進業務」町民に対する興味・関心の喚起等の一環として企画されたものです。

伊藤選手は同行のスタッフと共に、ウォーミングアップから守備・打撃練習と、ひとつひとつの動きをPCのデータ等で確認しながら練習に取り組んでいました。

伊藤選手の大きな体でダイナミックな動きは迫力満点で、「さすがプロ!」といった感じで圧倒されました。

伊藤選手やスタッフの方々からは、「個人的に使用するには、思うように打撃・守備練習ができる施設は全国的にも少ない。この施設は適度な広さもあり、自主トレーニングで体を動かすにはとても良い環境です。」と、うれしい声がかれました。

最終日には地元小中学生を対象に、伊藤選手による「野球教室」も開催され、参加した子どもたちは寒さにも負けず、大喜びでプロ野球選手とのふれあいを楽しんでいました。

油木で体を鍛えられた、伊藤選手の今季の活躍を期待しています。



「にしかわ化石館」を訪問して...

「ゆきの灯り」(12月号)でお伝えしていた「にしかわ化石館」活用について神石高原町観光協会と協議した企画が早くも動きました。

今回の企画は福山から「豊松」油木「三和」を巡るバスツアーで、行程の中に「にしかわ化石館」が含まれ、12月14日(火)、3名のツアー参加者が「にしかわ化石館」を訪問してくださいました。

一行は、館内で尾森化石魅力化プロジェクトリーダーから、故西川功氏の経歴や功績、開館までの経緯・展示物の説明を聞き、40億年前から始まる太古のロマンを感じておられました。

このツアーは4回予定されていたようですが、集客の関係で残念ながら今回限りです。また仕切り直しが必要ですが、企画いただいた観光協会へ感謝申し上げます。



協働支援センター連絡会議

町内の各支援センターが二か月に一度集まり、情報交換等を行う「連絡会議」が12月24日(金)「にしかわ」を会場に開催されました。

従来、三和にて開催されていたものですが、今回「にしかわ化石館」開館に合わせ会場を変更し、各支援センターの皆さんにも見学していただき、町内共通の「お宝」として意識共有していただくことを目的としました。

町内各地区には、「昭和のおもちゃ館(豊松)」・「神石民族資料館(神石)」・「志麻利(三和)」等、生涯学習として魅力のある地域資源が多くあります。どのような共有・活用して神石高原町の「生涯学習の推進・地域活性化」につなげていくかがこれからの課題ではないでしょうか。



「にしかわ化石館」が令和3年10月に開館して約3か月が経過しました。

開館直後のような賑わいは落ち着きましたが、開館日には何人かの方が来館されています。特に町外からの来館者は、「化石に熱い思い」を持った方ばかりで、「にしかわ化石館」へ期待を持ち遠方まで足を延ばしてもらっています。本当にありがたいことです。

地元の方も含めて、来館された方々に満足していただき、リピーターとして改めて来館していただくためには何が必要なのか。真剣に議論しなければなりません。

「にしかわ化石館」という建物だけでなく、それを取り巻く環境や条件を整えて行くことが令和4年の取り組みだと思います。

是非一度、「にしかわ化石館」へお越しください。

そして、広島から来館された方からいただいた、左に掲載したメッセージに込められた思いや期待を活かす手立てを一緒に考えてください。

「にしかわ化石館」来館者

	町内	町外
10月	125	70
11月	79	37
12月	27	21
	231	128

「にしかわ化石館」を訪れた方から

嬉しいメッセージをいただきました。(一部抜粋)

「にしかわ化石館」は素晴らしい場所です。神石高原町の宝だと思いました。貴重な化石が多く、よく個人でここまで集められたと感動するやら、びっくりするやらでした。
あの上まではとてももったいない。是非、神石高原町に全国に向けて発信してもらいたいなと思いましたよ。場所ももっと広い建物が必要とする気がしました。また、ゆっくり行きたいです。

神石高原町教育振興計画には、「自然と歴史を生かした教育・文化のまちづくり」が謳われています。

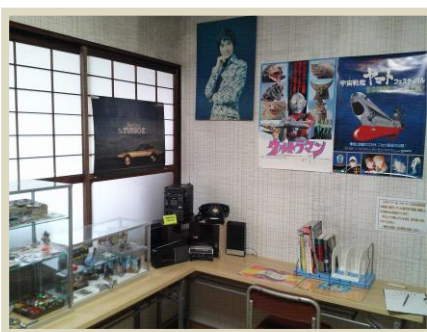
油木協働支援センターでは、「にしかわ化石館」を油木地域という枠の中ではなく、広く神石高原町全体の「宝」教育資源として捉え、振興計画具現化の拠点となることを願っています。



あの頃を覚えていきますか?

「にしかわ展示室」で昨年12月8日(水)から始まった「冒険少年展」には、アイドルのサイン・レコードをはじめ、映画関係・スポーツ関係の書籍やお菓子のオマケ等、50〜60代にとっては「懐かしい」グッズが勢ぞろいしています。

是非、一度「冒険少年展」を見に、「にしかわ展示室」へおいで下さい。



わんぱく冒険少年展
いよいよ1月31日まで!
にしかわ展示室にて好評開催中
月水金 11:00~19:00

がんばれ 日本!!
油木協働支援センターは
北京オリンピック/パラリンピック 日本選手団を応援します!!

一日のスタートは朝食から。「出典：文部科学省」

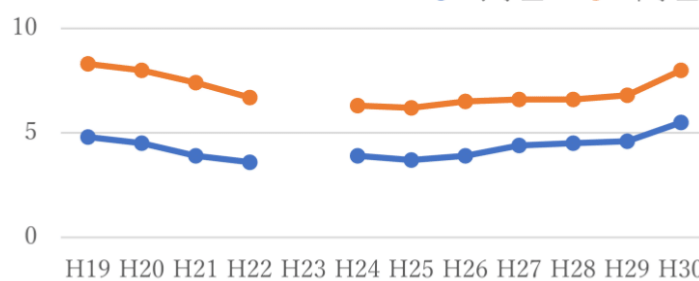
なぜ、朝食をとることは大切なのでしょうか。

朝食は一日の生活のスタートです。朝食をとることにより身体にエネルギーを補給し、集中力ややる気、体力を発揮し持続させ、一日の身体のリズムを整えることができます。

特に、子どものころは食生活を含めた基本的な生活習慣が形成されていく大切な時期です。朝食をしっかりとする習慣を子どものころに身につけることは、生涯を通じて健康的な生活をおくる基礎を培うことにもつながるのです。



子どもの朝食欠食率の推移



平成23年度は、東日本大震災の影響等により、調査を実施していない。



資料 食育白書 平成30年
農林水産省
小学6年生 中学3年生



—地域の子どもを見守り育てましょう— (油木協働支援センター)